

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

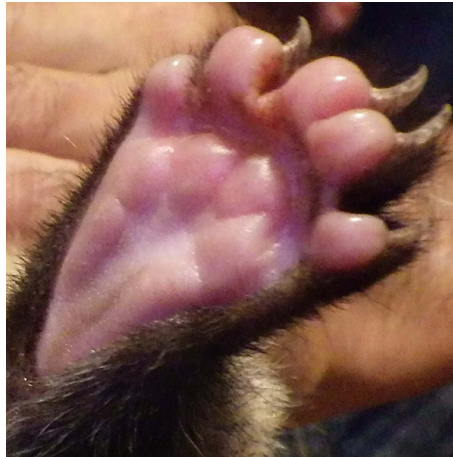
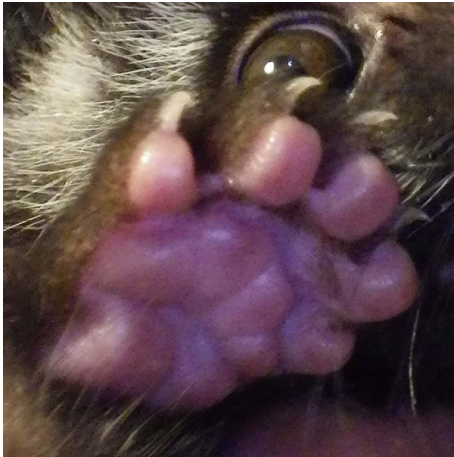
2012年10月号 通巻46号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2012

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

ハクビシンの肉球はピンク色

肉球に優れた運動能力の秘密が隠されている？



(左)ハクビシンの右前足。

(右)ハクビシンの左後足。

写真は幼獣だが色、形状は成獣も同じ。

筆者は残念ながらタヌキの肉球の写真は持っていない。イヌを飼っている方はその肉球をご覧ください。タヌキもほぼ同じ形状です。

動物の体で一番観察しづらい部分と言えば、歯と肉球(足の接地面)でしょう。歯は骨になっても残りますが、肉球はそうもいかないので難易度は高めです。ですので、野生動物の肉球を見る機会があるのならそれは絶対に逃すわけにはいきません。

先日、幸運にもハクビシンの肉球を撮影する機会がありました。上の写真がそれです。

「つかむ」ことができる足

ハクビシンの肉球でまずびっくりするのがその色です。毛が無いきれいなピンク色で、まるで人間の赤ちゃんの手を見ているようです。鋭いツメはさすが食肉目動物といったところですが。

ハクビシンは電線を歩くことができる動物です。その秘密がこの肉球にありそうです。肉球部分をよく見ると、はっきりと凹凸があるのがわかります。凹部分はどうやら人間の手のひらのシワと同じようなものらしく、3次元的に掌(てのひら)を曲げ

ることができることを示しているようです。つまり、電線のような曲面でもしっかりと握ることができるのです。ハクビシンが電線から落ちたという話は聞いたことはありませんので、その握力は十分に強そうです(落っこちそうになった例はありますが、その場合も見事にリカバリーしています)。

イヌやネコを飼っている方はその肉球を観察してみてもほしいのですが、イヌ、ネコの掌は平面的で、物をつかむことはできません。これはタヌキも同じです。これらの動物は基本的に地面を速く走る動物であり、そのために特化した掌になっているのです。一方ハクビシンの掌は、地面よりも樹木に登ることに適応した形になっていると言えるでしょう。タヌキとハクビシンがまったく違う方向性を持っていることが肉球からわかるのです。

ちなみにアライグマも電線を歩くことができる動物ですが、こちらは長い指を持つため物をつかむことができます。

ハクビシンの肉球を見るには

ハクビシンの肉球を実際に見てみたくなった方もいるでしょうが、自然環境下で見ることはかなり難しいです。動物園へ行って、運良くハクビシンが寝ていて、運良く足がこちらを向いていれば肉球を観察することができるかもしれません。ただしハクビシンは近くにはいないでしょうから、双眼鏡を持参することをお勧めします。私は井の頭自然文化園でハクビシンの肉球を見ることができたことがあります。動物園で寝ている動物を見つけたならば、肉球を観察してみるのも面白いのではないのでしょうか。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>